



2022年5月 第736号

教会だより

カトリック甲府教会 月報

〒400-0032 山梨県甲府市中央2-7-10
Tel / Fax 055-237-2531 <http://catholic-kofu.com>
編集・発行 カトリック甲府教会 広報委員会

先ずは紹介から

カトリック甲府・塩山教会 主任司祭 芹沢 博仁

甲府教会の主任司祭として赴任しました。叙階は1988年です。わたしは横浜教区に属しているので、以下の県に長野県を含めた4県で原則働いています。これまで神奈川県で4年、静岡県で16年、また神奈川県で14年、そして甲府にやってきました。これから皆さんと宣教、司牧を進めていくにあたり、わたしの性格というか考え方を少しずつ知っていただければと思います。先ずは臨機応変と優先順位の二つを。

規則や決定事項がそのまま行えたり、問題が生じなければ良いのですが、実際には間違いや想定外のことが出てきたりします。状況に応じて次善の手を打つ。マニュアルに従うことの方が楽で安心できるかもしれませんが、しかし、それで相手の役に立っているかと言えば、必ずしもそうではないでしょう。そうしたことを考えています。



必要な人に必要な分を、と考えると順番をつけることになるでしょう。有り余るものを持っているわけではないのですから。コロナ感染が広まった2020年、ほとんどの教会でその活動が、ミサを含めて止まりました。しばらくして、どう再開していくか問われました。その時、教会学校を含めて青少年を優先する判断もできます。子供の1年は大人とは違うと言われていました。子供たちがミサに与らない、教会に行かない習慣を身に着けるのにさほど時間は必要ないでしょう。

こうしたことをいろいろと考えながらやっていきたいと思います。それではこれからよろしくお祈りします。



おしらせ



1 5月からミサについて

感染者数の減少傾向、県の規制緩和、高齢者3回目接種の進捗状況を踏まえ定員を聖堂40名（該当ブロック）講堂60名（該当ブロック）にいたします。

典礼暦	時間	聖堂参加可能ブロック (定員数40名)	講堂参加可能ブロック (定員数60人)
5/ 1 復活節第 3 主日	10:30	西ブロック	山城・峡南ブロック
5/ 8 復活節第 4 主日	10:30	東・南ブロック	北・中央ブロック
5/15 復活節第 5 主日	10:30	山城・峡南ブロック	西ブロック
5/22 復活節第 6 主日	10:30	北・中央ブロック	東・南ブロック
5/29 主の昇天	10:30	こどもとその保護者	

聖堂と講堂に受付を設置いたしますので、ご自分が所属しているブロックの受付に氏名と連絡先の記入もしくは確認をお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ミサに出席される方は、当日自宅にて検温をお願いいたします。普段より体温が高い、また体調がすぐれないなどの場合は、ミサへの参加自粛をお願いいたします。皆様のご協力をお願い致します。

2 ウクライナ人道支援募金の結果

3月13日（日）から4月3日（日）までの募金（ミサの日に献金箱を設置）で68,160円が集まりました。カリタスジャパンにウクライナ人道支援募金として送りました。ご協力ありがとうございました。

3 シノドスアンケートについて

教会委員会メンバーを中心にアンケートをお願いしたところ11名の方から回答がありました。ご協力ありがとうございました。アンケートのまとめと山梨地区としての扱いにつきましては、次回教会委員会（5月8日）にて報告いたします。

4 地域福祉委員会より

(1)四旬節の「愛の献金」

教皇様の四旬節に「回心と愛のわざに励むよう呼びかけ」を受けて甲府・塩山教会の皆さまで回心の祈りとともに行いました「愛の献金」額は94,700円で送金手数料566円を差し引き、94,134円 カリタスジャパンに送金致しました。

(2)ウクライナ被災者支援の募金

ロシア政府によるウクライナ侵略により被災したウクライナ国民への祈りを込めて実施しました募金活動の結果、220,821円募金されました。全額カリタスジャパンに送金致しました。なお、第2回目は、5月28日(土)13時より山梨県地域づくり交流センターで、ウクライナの平和を祈り、『ウクライナ籍の方のお話と映画「ひまわり」の上映会』と募金活動を行います。申し込みは、依田様(080-5413-7334)までお願いいたします。(定員45名ですので定員なり次第締め切ります。また自家用車で来られる方は、ご自身で駐車場の手配をお願いします。)

5 信徒大会の意見に対する報告

議事録をセンター掲示板に張り出ますのでご確認をお願いいたします。

6 教会委員会

5月8日(日)11:30～サンタルチア講堂にて教会委員会が行われます。
※当日参加できない場合は、代理の方に出席をお願いしてください。

7 施設管理委員会より

聖堂南にプランターを設置いたしました。年間を通して管理をしていただける方、お花を植えていただける方を求めています。費用は施設管理委員会負担です。(施設管理委員会)までお願いいたします。

8 きずなの会 お休みいたします。

9 典礼委員会 5月21日(土) 9:00～センターホール

10 地域福祉委員会 5月22日(日)14:00～サンタルチア講堂

11 広報委員会 5月29日(日)13:00～センターホール

～教会維持費および墓地・納骨堂管理費の納入について～

教会維持費および墓地・納骨堂の管理費は、下記の口座へお振込いただけます。

月定献金振込先(教会維持費)

山梨中央銀行 本店営業部 普通預金 188674

墓地・納骨堂管理費振込先(毎年1月～5月中旬)

山梨中央銀行 本店営業部 普通預金 1402890

受取人(宗)カトリック横浜司教区甲府カトリック教会

関係団体などからのお知らせ

(1)NPO法人こどもサポートやまなし

①理事会・運営委員会

5月17日(火)18時より、サンタルチア講堂で行います。

②学習会

今月の学習会は、5月8日(日)、5月22日(日)の13時30分より
山梨カトリック福祉センターで行います。



THE ASCENSION

— 世界広報の日 —

カトリック教会は、第2バチカン公会議の最初の公文書として出された「広報機関に関する教令」によって、全世界で毎年、「世界広報の日」を記念するように決めました。

日本では、復活節第6主日に「世界広報の日」のために祈り、「世界広報の日」のテーマを教会全体で考え、祈り、献金を行います。1967年以来、毎年、特別のテーマが定められ、教皇メッセージが出されています。
(女子パウロ会 HP より掲載)

第56回「世界広報の日」教皇メッセージ

心の耳で聴く

親愛なる兄弟姉妹の皆さん

昨年は「来て、見る」ことが、現実を知るために、そして出来事の体験や人との直接の出会いから現実を伝えるために必要であることを考察しました。その流れで今年は、別の動詞、「聴くこと」に着目したいと思います。これはコミュニケーションのいろはには欠かせないもので、真の対話の絶対条件です。

実際わたしたちは、日常の普通の人間関係にあっても、また市民生活にかかわる重要なテーマの議論にあっても、目の前にいる人に耳を傾けるという能力を失いつつあります。と同時に聴くことは、ポッドキャストやボイスチャットなどが利用されることによって、通信や情報の分野でかつてない重要な発展を示しています。人間のコミュニケーションにとって、聴くことは依然として不可欠であることを裏づけているのです。

ふだんは心の傷の治療に携わる著名な医師が、人間がもっとも必要とするものは何かと問われました。医師は、「聞いてほしいという尽きない欲求」だと答えています。これはほとんど表に出ることのない欲求ですが、教育者や養成者と呼ばれる人たちに、それとどう向き合うのかと問うのです。親や教師、司祭や司牧担当者、メディア関係者、社会活動や政治活動をする人たちなど、伝える役割の人に対してです。

心の耳で聴く

聖書のページからわたしたちは、聴くことは単に音声認識を意味するだけでなく、神と人間とを結ぶ対話による関係と本質的につながるものだということを学びます。律法の最初のおきての冒頭のことは「聞け、イスラエルよ」（申命記6・4）は聖書ですっと繰り返され、聖パウロが「信仰は聞くことにより……始まる」（ローマ10・17）と断言するまで続きます。確かに主導権は、わたしたちに語りかける神にあり、わたしたちは神に耳を傾けることで神にこたえます。しかしその聴くということも、そもそも神の恵みによるものであり、父母のまなざしや声に反応する乳飲み子と同じです。五感のうち神



が重視するのは、まさに聴覚のようです。おそらく視覚よりも感度が問われ、注意が必要なので、人間の自由にゆだねられるからではないでしょうか。

聴くことは、謙遜な神の姿と相通じるところがあります。神は、語ることによって人間をご自分の似姿として造り、聴くことによって人間をご自分の対話の相手として認めます。神がそのようなご自分を明かされるのは、聴くという行為によって可能となるのです。神は人間を愛しておられます。だからこそ神はみことばを人間に語り、だからこそ人間の声を聴くために「耳を傾ける」のです。

一方人間は、聞かずに済むように、その関係から逃れよう、背を向けて「耳をふさいで」しまおうとしがちです。聞くことを拒否することは、助祭ステファノの話に耳をふさぎ一斉に彼に襲いかかった聴衆がそうだったように（使徒言行録7・57参照）、往々にして、相手への攻撃となってしまいます。

このように、一方には自由なコミュニケーションによってご自分を明かす神がおられ、他方には耳を澄ませ、聴くことを求められている人間がいるのです。主は、人間が余すところなくあるべき姿になれるようにと、人間を愛の契約にはっきりと招いておられます。それは、他者に耳を傾け、受け入れ、譲る力を備えた神の似姿、かたどりとなることです。聴くとは、本質的には愛の次元なのです。

だからイエスは弟子たちに、自分たちの聴く姿勢を検証しなさいと求めておられます。「どう聞くべきかに注意しなさい」（ルカ8・18）。そう勧告したのは、種を蒔（ま）く人のたとえ話をし、ただ聞けばよいのではなく、しっかりと聴かなければならないと弟子たちに理解させた後のことです。「立派なよい」心でみことばを受け入れ、それをよく守る人だけが、いのちと救いの実をもたらすのです（ルカ8・15参照）。話している相手、聞いている内容、聞き方に注意して聴くことによるのみ、コミュニケーションの作法を磨くことができます。作法の軸にあるのは理論や技法ではなく、「寄り添うことのできる心の力」（使徒的勧告『福音の喜び』171）です。

皆に耳があって、しかも大方が申し分のない聴力に恵まれていても、他者の声を聞けないでいます。まさに、身体的なものよりもひどい、内的な聴覚障害があります。事実、聴くということは聴覚だけでなく人格全体にかかわっています。聴くことの真のメインステージは心です。ソロモン王が若くして知恵を発揮したのは、「聞き分ける心」（列王記上3・9）を与えてほしいと主に願ったからです。また聖アウグスティヌスは、心で聴くこと（*corde audire*）、つまり、ことばを外にある耳ではなく、霊的に心で受け取るよう勧めました。「耳に心をもつのではなく、心に耳をもちなさい」。さらにアシジの聖フランシスコは、「心の耳を傾けてください」²と兄弟たちを諭しました。

真のコミュニケーションを求めるうえでまず再認識すべき聴く姿勢は、自分自身に耳を傾けること、つまり自分の真の望み、各人の内奥に刻まれているものに聴くということです。それにわたしたちを被造界の中で唯一無二の存在にしているもの、すなわち他者および絶対他者である神とかかわりたいという欲求に聴くことによるのみ、スタートし直すことができます。わたしたちは自己完結している原子としてではなく、ともに生きるように造られているのです。

よいコミュニケーションの条件である聴くこと

正しく聴くことではない、それとは逆の聞き方があります。盗み聞きです。事実、これまでもこれからも存在し、今日のSNS時代にいっそう顕著になっているのは、自分の利益のために他者を利用しようとする、盗み聞きとのぞき見の誘惑です。それに対して、コミュニケーションを良好で完全に人間らしいものにするのは、まさしく顔と顔を突き合わせ、目の前にいる人に耳を傾けること、向き合おうとする他者に誠実に、信頼をもって、正直に心を開いて耳を傾けることです。

残念なことに、聴くことの欠如は日常生活でたびたび経験されますが、それは政治の世界でも顕著で、そこでは大概、相手に耳を傾けるのではなく互いに言い放しです。これは、真理や善よりも周囲の賛同を求めていること、相手に耳を傾けるのではなく聴衆に聞き耳を立てていることの表れです。対してよいコミュニケーションとは、相手を揶揄する意図のあるジョークで聴衆に印象づけようとするのではなく、相手の理屈に注意深く耳を傾け、現実の複雑さを理解しようとする努めることです。教会でさえイデオロギーの派閥が形成され、耳を傾ける姿勢が消え去り、不毛な対立に場を明け渡しているのなら、それは悲しいことです。

実際のところわたしたちの対話では、きちんとしたコミュニケーションがほとんど取れていません。自分の見解を押しつけるために、相手が話し終わるのを待っているだけです。そうした状態では、哲学者エイブラハム・カプランが指摘するとおり、対話 [dialogue] が「二人が話すこと [duologue]」、つまり二者の独白 [monologue] になっているのです。一方、真のコミュニケーションでは、「あなた」と「わたし」の双方が「出向いて」、互いに歩み寄っているのです。

ですから聴くことは、対話にも正しいコミュニケーションにも、いちばんで不可欠な要素です。まず聴くということをしなければコミュニケーションは成立しませんし、聴く力がなければ、優れた報道はできません。確実で良識ある包括的な情報を提供するには、長期にわたり耳を傾けることが必要です。ルポとして何らかの出来事を報告したり、現状を描いたりするには、耳を傾ける技術の獲得と、自身の考えを変えて当初の仮説を修正することもあるとの覚悟が必要です。

独白から脱却しなければ、真のコミュニケーションの保証となる多声でなる一致には至れません。「一軒目の居酒屋に長居はするな」とその道のプロが教えるように、より多くの情報源に耳を傾けたということが、伝達する情報の信頼度と深刻度の確証となります。より多くの声を聞くこと、互いに耳を傾け合うこと、教会においても兄弟姉妹の間でもそれをすれば、わたしたちは見極める力を発揮できるようになります。これはつねに、多声でなる合唱曲へと向かわせる力となって現れるのです。

しかしなぜ、聴くことは大変なのでしょう。聖座の偉大な外交官であったアゴスティーノ・カサローリ枢機卿は、「忍耐の殉教」について語っています。非常に難しい人物相手の交渉において、自由が制約される中で最大限の益を得るには、相手に耳を傾けること、そして相手に耳を傾けてもらうことが必要です。それほど厄介な状況ではないにしても、話を聞くには、つねに忍耐の徳と驚く力が求められます。話している相手のもつ真実、それが真実の一片にすぎないとしても、その真実に驚嘆する能力です。驚きだけが知識を与えてくれます。目を丸くして、周りの世界を見ている子どもの尽きることのない好奇心です。大人の自覚をもって子どものように驚く――この心構えで聴くことは、積み重なって豊かさをもたらします。というのも、わずかなものであったとしても、相手から学んで自分の人生に生かせる何かは必ずあるからです。

長期にわたるパンデミックで傷ついた今、社会の声に耳を傾ける力はとても重要です。「公式発表」に対して積み重ねられた強い不信感が、「インフォデミック（訳注：「インフォメーション」と「エピソード」を組み合わせた造語。事実と虚偽の区別が困難になるほどに情報が氾濫する状態を指す）」までも引き起こし、そうすると情報世界の信頼性と透明性の確保はあっという間に難しくなります。耳を傾け、じっくりと聴かなければなりません。とりわけ、多くの経済活動の減速や停止によって高まっている社会不安に対し聴くことが必要です。

やむなく移住した人たちの現実もまた複雑な問題で、解決の処方箋はどこにもありません。何度も申し上げていることですが、移住者に対する偏見を乗り越え、わたしたちの頑迷な心を解きほぐすには、彼らの話に耳を傾ける努力が必要です。彼ら一人ひとりに名前と来し方があるのですから。多くの優秀なジャーナリストは、すでにそれを行っています。ぜひ、そうしたいと考えているジャーナリストもたくさんいます。彼らを励ましましょう。その話を聞きましょう。そうすれば、自国にとって最善と思う移民政策をだれもが先入見なく選べるようになるのです。しかしいずれにせよ目の前にあるのは、ただの数でも危険な侵略者でもなく、生身の人間の顔と人生であり、耳を傾けるべき人々のまなざしであり、期待であり、苦しみのことです。

教会の中で互いに耳を傾けること

教会でも、耳を傾けること、互いに耳を傾け合うことはとても大切です。それはわたしたちが互いに差し出さう、もっとも尊く豊かな贈り物です。わたしたちキリスト者は、聴くという奉仕のわざが、最高の聴き手であられる神から任されたものであり、そのかたのわざに加わるよう求められていることを忘れてしまっています。「われわれが神の言葉を語ることができるためには、われわれは神の耳をもって聞かなければならないのである」。プロテスタント神学者ディートリッヒ・ボンハッフアーはこう語り、交わりにおいて、他者にささげるべき第一の奉仕のわざは、その声に耳を傾けることだと思ひ出させてくれます。兄弟に耳を傾けることのできない人は、いずれ、神に耳を傾けることもできなくなるでしょう。

司牧活動でもっとも重要な仕事は、「耳での使徒職」です。使徒ヤコブが、「だれでも、聞くのに早く、話すのに遅く」（ヤコブ1・19）ありなさいと諭したように、話すよりも聞くことです。人々に耳を傾げるために自分の時間の一部を無償で差し出すことは、最初の愛の行為です。

シノドスの歩みが始まっています。互いに耳を傾けるよい機会となるよう祈りましょう。交わりは作戦や計画の産物ではなく、兄弟姉妹が互いに耳を傾け合うことで築かれるものです。合唱と同じで、一致に必要なのは一本調子な画一性ではなく、多種多様な声音、多声音です。しかも合唱の各声は、他の声を聞きながら、合唱曲のハーモニーを意識しつつ歌われます。このハーモニーは作曲家が編み出したものではあっても、その実現は、全体と一人ひとりの声による合唱次第なのです。

わたしたちに先んじ、わたしたちを含む交わりに参加しているとの自覚があれば、シンフォニックな教会を再発見することができます。それぞれが自分の声で歌い、他の声を贈り物と認め、聖霊が作曲する合唱曲のハーモニーを響かせる教会です。

ローマ、サン・ジョヴァンニ・イン・ラテラノ大聖堂にて
2022年1月24日、聖フランシスコ・サレジオ司教教会博士の記念日
フランシスコ

(カトリック中央協議会 HP より掲載)

教会学校からのお知らせ

初聖体のお勉強が始まりました



石塚りゅう君、グエン・リンさん、サダヒラ・アキミさん、トラン・サーさん、ナトー・マーク君、ノミア・ギリエル君、宮田ノイ・エルさん、森山あいかさん、の8名が10月30日の子どもミサの中で初聖体を受けるための準備を進めています。

8名のお子さんがご聖体の秘跡を通して真にキリストと結ばれ、兄弟姉妹の皆さんと一致する恵みに与ることができますようお祈りください。

ご進学・ご進級おめでとうございます！



今年度、新しく小学校に入学したお子さまや各学年に転入された方がいらっしゃいましたら、教会学校・中高生会のご案内をさせていただきたいと思いますので青少年育成委員会までお知らせください。お待ちしております！



主日ミサ 該当ブロック表



日	時間	場所	該当ブロック
5月 1日(日)	10:30~	聖堂	西ブロック
		講堂	山城・峡南ブロック
5月 8日(日)	10:30~	聖堂	東・南ブロック
		講堂	中央・北ブロック
5月 15日(日)	10:30~	聖堂	山城・峡南ブロック
		講堂	西ブロック
5月 22日(日)	10:30~	聖堂	中央・北ブロック
		講堂	東・南ブロック
5月 29日(日)	10:30~	聖堂	こどもとそのご家族



今月の教会カレンダー（典礼暦・外国語ミサ・行事等）



5月 1日(日) 四旬節5主日	10:30 ~	ミサ(該当ブロック)
	13:00 ~	ベトナム語ミサ (tiếng Việt)
6日(金) 初金ミサ	9:30 ~	ミサ
8日(日) 復活節第4主日	10:30 ~	ミサ(該当ブロック)
	11:30 ~	教会委員会
	15:00 ~	ポルトガル語 (Português)
15日(日) 復活節第5主日	10:30 ~	ミサ(該当ブロック)
	12:30 ~	韓国語ミサ (한글)

22日(日) 復活節第6主日	10:30 ~ ミサ(該当ブロック)
	14:00 ~ 英語ミサ (English)
29日(日) 主の昇天 (復活節第7主日)	10:30 ~ ミサ(こどもとそのご家族)
6月 3日(金) 初金ミサ	9:30 ~ ミサ
5日(日) 聖霊降臨の主日	10:30 ~ ミサ(該当ブロック)
	14:00 ~ ベトナム語ミサ (tiếng Việt)